

平成28年度 第1回 美濃市総合教育会議 会議録

1 開催日時

平成28年9月30日（金）午前9時30分～午前10時45分

2 開催場所

美濃市防災中央コミュニティセンター2階大会議室

3 出席者（構成員）

市長（議長）	武藤鉄弘
教育長	樋口宜直
教育委員	市原慶子
教育委員	藤川貴子
教育委員	西尾政徳
教育委員	中島正憲

4 事務局

秘書課長	西部芳秀
教育総務課長	猿渡篤子
学校教育課長	山口敏則
人づくり文化課長	野田 勉
秘書課課長補佐	井上博司

5 報道関係者・傍聴者

報道関係者 0名 傍聴者 0名

6 会議事項

- 1 開会
- 2 市長あいさつ
- 3 教育長あいさつ
- 4 会議事項
 - ・新学習指導要領改訂に基づく教育課程の変更について
- 5 その他

7 会議録＜開会 9:30 閉会 10:45＞

発言者	発言内容
西部秘書課長	定刻となりましたので、ただいまから第1回的美濃市総合教育会議を開催いたします。はじめに武藤市長がごあいさつ申し上げます。

武藤市長	<p>みなさん、おはようございます。本日はお忙しい中、また、平日の早朝から平成28年度第1回的美濃市総合教育会議にお集まりいただきまして誠にありがとうございます。</p> <p>本年度からは、昨年度策定いただきました「美濃市教育大綱」を実行に移していくこととなりますので、多くのご意見等をお願いいたします。</p> <p>全国学力テストの結果がマスコミで取り上げられておりますが、岐阜県は全体的には全国の上位であると思われませんが、結果内容には不明な点もあり分析が必要ではないかと考えています。</p> <p>今後、美濃市の子どもたちをどのように育てていくのか、皆さんとともに考えていきたいと考えておりますので、よろしくをお願いいたします。</p>
西部秘書課長	<p>次に樋口教育長からごあいさつ申し上げます。</p>
樋口教育長	<p>みなさん、おはようございます。本日は、ありがとうございます。</p> <p>予定ですが、総合教育会議終了後に定例教育委員会を開催させていただきます。午前中となりますが、どうぞよろしくお願いいたします。</p> <p>今日は、新しい「学習指導要綱」への対応が議題となっております。後ほど、ご説明させていただきますが、皆さんのご意見をお聞かせいただきますようお願いいたします。</p>
西部秘書課長	<p>ここからは、美濃市総合教育会議設置要綱第4条に基づいて市長が議長となりますので、ここからの会議の進行をお願いします。</p> <p>それでは、市長よろしくお願いいたします。</p>
武藤市長	<p>それでは、要綱に基づき議長を務めさせていただきます。</p> <p>次第4の「新学習指導要領改訂に基づく教育課程の変更について」を議題といたします。</p> <p>新学習指導要領が、小学校は2020年度から、中学校は2021年度から実施されます。その改訂に伴い、小学校3年生から6年生の授業時間数が増加することから、教育課程の変更が必要となります。</p> <p>それでは最初に「新学習指導要領改訂」について教育長より報告をお願いします。</p>
樋口教育長	<p>【別紙資料により説明】</p> <p>新たな「学習指導要領」では、「どのように社会や世界と関わり、よりよい人生を送るか」が加えられて、小学校5年生から6年生は従来の外国語活動が英語科となり、3年生及び4年生には外国語活動が実施されます。詳細につきましては、後ほど学校教育課長からご説明させていただきます。</p>

<p>武藤市長</p>	<p>きます。</p> <p>なお、新学習指導要領の内容は、美濃市教育大綱に盛り込まれているため、改正の必要ありません。</p> <p>続きまして、学校教育課長より教育課程の変更に伴う美濃市の対応について、説明をお願いします。</p>
<p>山口学校教育課長</p>	<p>【第1回総合教育会議資料及び別紙2～5により説明】</p> <p>新学習指導要領では特に外国語活動の充実を図るとして、小学校3～6年生の授業時間がそれぞれ35時間増加しなければならないが、英語科の授業をどこに組み入れるかが課題である。なお、外国語に対する授業は高等学校では既に進んでいる状況である。</p> <p>児童の学習意欲や生活状況を考えた場合、授業時間のモジュール化や7時限の導入は好ましくないと考えている。</p> <p>また、英語科授業の開始に伴い、小中学校年間最低限授業時間数の確保も課題となってくる。</p> <p>課題や現状を総合的に判断した結果、詳細な研究及び検討は必要であるが、夏休みの短縮が解決策になると考えおり、委員のご意見をいただきたい。また、新学習指導要領とは関係ないが、入学時の児童生徒の事前学校生活練習時間の確保及び年度当初の教職員の学校運営負担を軽減するために春休みを1日延長することも併せて提案させていただきたい。</p>
<p>武藤市長</p>	<p>ただいまの教育長からの報告、学校教育課長の説明内容について、皆さんのご意見をお願いします。</p>
<p>中島委員</p>	<p>質問ですが、小中学校とも授業日数が同じとした場合に中学校の方が授業時間数が多くなる理由はなんですか。</p>
<p>山口学校教育課長</p>	<p>1時限当たりの授業時間の差もありますが、別紙4にありますとおり中学校にはクラブ活動が無いなど、特別活動に充てる授業時間数が大きな要因です。</p>
<p>西尾委員</p>	<p>別紙4の説明では、小学校は現状の実施授業時間数に対して新基準時間数を下回ってしまいましたが、中学校は基準時間数に対して現状実施時間数が若干ですが上回っており、余裕があることから夏休み短縮で確保できる授業時間を全て割り振る必要はないように思えますが、どうでしょうか。</p>
<p>山口学校教育</p>	<p>別紙4は、美濃中学校を参考として説明させていただいており、美濃中</p>

課長	学校は広範囲が校下となっており、毎年全学年とも11月中旬から2月までは、帰宅時間を考慮して1時限当たりの授業時間を5分短くしており、決して基準に対する授業時間に余裕があるわけではありません。
市原委員	外国語活動と英語科の違いは何ですか。
樋口教育長	外国語活動は外国語を話すことを中心に実施していますが、英語科は書く・聞く・話す全てに取り組むこととなり、授業単位4コマとなります。
藤川委員	夏休みも学童保育が実施されていることから、夏休み短縮による影響は少ないのではないかと。ただし、教員の負担が増えることが少し心配される。
中島委員	<p>子どもたちの夏休みの活用方法も時代とともに変化している。昔は野外で遊ぶことが多かったが、現代の子どもたちは学校で友人に会えることも楽しみとしている。また、保護者の中には学校にエアコンが整備されているのに夏休み期間はそのままというのはおかしいとの意見もある。</p> <p>夏休みを短縮する際には、夏休みの課題（宿題）量も見直す必要があるのではないかと。また、夏休み取得の目的についても再確認する必要があるのではないかと。</p>
市原委員	現代の子どもたちは、日常生活の中で塾や習い事で精一杯のところがある。これ以上1日の授業時間が長くなる7時限の導入は、体力的にも精神的にも負担になるのではないかと。夏休みを短縮する方が有効な方法と考えられる。
中島委員	以前は実施されていた、土曜日の授業を再開する可能性はどうか。
樋口教育長	<p>現時点では、再開の予定はありません。</p> <p>学校長の判断で土曜日に授業を実施している学校もありますが、年間を通じて定期的に実施しているものではありません。</p>
武藤市長	<p>皆さんの意見は、概ね「夏休みの短縮での対応が望ましい」とのことですが、短縮による影響やどれだけ短縮するかは、さらに詳細な調査分析及び検討は必要ですが、いつから実施するかということも考えていかなければなりません。</p> <p>私は、新学習指導要綱が実施される2020年を待つ必要はないと思います。試行や試行結果の検証も必要だと考えていますが、実施時期について委員の方のご意見をお願いします。</p>

藤川委員	現在の5・6年生が行っている外国語活動の内容についてお聞きしたい。
樋口教育長	授業ではないので、決まった教材あるのではなく、市教育委員会としての副教材を用いて行っている。
山口学校教育課長	また、ALTによる全学校全学年全学級において、英語に触れるようにしている。
藤川委員	幼稚園や保育園での外国語活動の実態はどうか。
山口学校教育課長	詳細は不明であるが、実施している園があるとは聞いているが、内容についてもこの場では不明です。
藤川委員	私は、2020年まで待つ必要は無く、早く始めた方が現代社会を考えると子どもたちのためではないか。 ALTやその他、もっと外国語活動に講師を増やすことはできないか。
山口学校教育課長	講師及び財源の確保が検討課題である。
市原委員	外国語（英語）を話せることも重要であるが、外国人と触れ合うこと、日常生活の中で外国人に慣れることも国際化に必要ではないか。 大学には多くの留学生がおり、地域との交流を望んでいるとも聞いているので、様々な国の留学生を活用してはどうか。
西尾委員	最初に英語の授業が増えると聞いた時に感じたことだが、英語嫌いの子どもが早く多くなると心配したが、本質的な国際交流化を進めるためには、市原委員が言われたとおりだと思う。 実施時期は、特別早くする必要は無いと思うが、準備と環境が整い次第早く実施することに反対ではない。
武藤市長	外国出張で外国語が話せないことで情けない思いや悔しい思いを随分した。あいさつや日常会話必要最小限のことが話せたらと外国へ幾たびに実感させられる。また、相手の話を聞き取れることも大切であると思う。 子どもたちは美濃市の将来を担うもので、将来に投資することは重要であると考えているので、必要であれば財源は確保していくつもりである。

西部秘書課長	<p>メリット、デメリットなどもう少し追究して、美濃市の子どもたちにより良い教育を与えられるようにしたいと思いますし、二極化傾向、土曜日授業など課題は多くありますが、この総合教育会議において、皆さんと考えていきたいと思ひます。</p> <p>予定の時間となりましたので、本日はここまでとさせていただきます、今日の結果も踏まえてこの件については検討していき、次回提案させていただければと考えています。</p> <p>本日はありがとうございました。事務局へお返しします。</p> <p>それでは、以上で第1回の総合教育会議を閉会といたします。 慎重なご協議をどうもありがとうございました。</p>
--------	--

平成28年度 第2回 美濃市総合教育会議 会議録

1 開催日時

平成28年11月28日（月）午前10時00分～午前11時15分

2 開催場所

美濃市防災中央コミュニティセンター2階中会議室

3 出席者（構成員）

市長（議長）	武藤鉄弘
教育長	樋口宜直
教育委員	市原慶子
教育委員	藤川貴子
教育委員	西尾政徳
教育委員	中島正憲

4 事務局

秘書課長	西部芳秀
教育次長	北村道弘
教育総務課長	猿渡篤子
学校教育課長	山口敏則
人づくり文化課長	野田 勉
秘書課課長補佐	井上博司

5 報道関係者・傍聴者

報道関係者 0名 傍聴者 0名

6 会議事項

- 1 開会
- 2 市長あいさつ
- 3 教育長あいさつ
- 4 会議事項
 - (1) 新学習指導要領改訂に伴う教育課程の変更について
 - (2) 新学習指導要領に係わる美濃市教育の在り方について
～全国学力学習状況調査より～
 - (3) 美濃小学校大規模改造事業について
- 5 その他

7 会議録＜開会 10:00 閉会 ＞

発言者	発言内容
西部秘書課長	<p>定刻となりましたので、ただいまから平成 28 年度第 2 回的美濃市総合教育会議を開催いたします。はじめに武藤市長がごあいさつ申し上げます。</p>
武藤市長	<p>みなさん、おはようございます。本日はお忙しい中、から平成 28 年度第 2 回的美濃市総合教育会議にお集まりいただきまして誠にありがとうございます。</p> <p>前回の会議では、新学習指導要領改訂に伴う教育課程の変更についてご意見をいただきましたが、来年度に向けての方向を決めていく必要があります。</p> <p>美濃市の教育の在り方は模索の状況であり、文部科学省の指示及び指導の中で美濃市の実情に即した教育を皆さんと考えていきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。</p> <p>また、先般ですが子どもの貧困に関するアンケートがありました。市内の子どもたちに有るのか無いのか？ 公開されている数値や情報に惑わされることなく、自分たちで情報収集と分析が必要であり、本市の生活保護や給食費から見た場合、市内には貧困に苦しんでいる子どもはいないと考えています。</p>
西部秘書課長	<p>次に樋口教育長からごあいさつ申し上げます。</p>
樋口教育長	<p>みなさん、おはようございます。本日は、ご出席をいただき誠にありがとうございます。</p> <p>前回の会議内容を踏まえて、新しい資料も用意しましたので、更にご意見をいただければと考えておりますので、どうぞよろしくお願い致します。</p>
西部秘書課長	<p>ここからは、美濃市総合教育会議設置要綱第 4 条に基づいて市長が議長となりますので、ここからの会議の進行をお願いします。</p> <p>それでは、市長よろしくお願ひします。</p>
武藤市長	<p>それでは、要綱に基づき議長を務めさせていただきます。</p> <p>次第 4 (1) の「新学習指導要領改訂に基づく教育課程の変更について」を議題といたします。</p> <p>前回の会議で新学習指導要領が、小学校は 2020 年度から、中学校は 2021 年度から実施されることの報告、またその改訂に伴い小学校 3 年生から 6 年生の英語の授業時間数が増加することから、教育課程の変更が必要になることの説明がありました。</p>

	<p>そこで、新学習指導要領に基づく教育課程の変更につきましては、教育委員会事務局から夏季休業日については短くすること、年度末年度初休業日については、1日長くすることという提案がなされております。</p> <p>その後、校長会の意見や他市の動向なども取り入れて、考慮検討されているかと思えます。</p> <p>美濃市ではどのように進めていくか、確認のため学校教育課長から報告をお願いします。</p>
山口学校教育課長	<p>前回の提案及び提案に対するご意見を思慮し、平成29年度から新学期始業式を4月6日から4月7日へ1日繰り下げ、夏休み（夏季休業日）の最終日を8月31日から8月27日に4日繰り上げるにより、新学年の準備期間及び英語授業時間を確保することをご提案いたします。</p> <p>校長会やPTAへの説明においても異論はなく、ご了承いただきました。</p>
武藤市長	<p>ただいまの学校教育課長の説明では、具体的に夏休み（夏季休業日）を8月27日までとし、8月28日から2学期を始めること、また4月は新学期の準備のために1日長くして4月7日から始めるという案が出されました。教育委員さんの意見はいかがですか。皆さんのご意見をお願いします。</p>
委員	<p>特に意見なし</p>
武藤市長	<p>留守家庭児童教室への影響は無いのか。</p>
山口学校教育課長	<p>特段、確認はしておりません。</p>
武藤市長	<p>委員からのご意見は無いようですので、提案どおり平成29年度から実施することよろしいでしょうか</p>
委員	<p>委員全員異議なし</p>
武藤市長	<p>それでは、実施までに他への影響を検討し、関係者との調整を教育委員会に求め、提案どおり実施することとします。</p>
武藤市長	<p>それでは、次に次第4（2）の「新学習指導要領に係わる美濃市教育の在り方について」を議題といたします。</p>

山口学校教育課長	<p>まず学校教育課長から説明をお願いします。</p> <p>【第2回総合教育会議 別紙資料により説明】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・資料1により、「美濃市の子どもに、どんな力をつけていかなければならないか」を説明 ・資料2等により、「学校教育の果たす役割は何か」及び「全国学区力状況調査結果」を説明 <p>全国学調結果の比較については、毎年テストを受ける子どもたちが異なることを配慮していただきたい。同一児童・生徒が受けているわけではないので、年度毎の結果を過度に評価しないようにしていただきたい。</p>
武藤市長	<p>ただいま、学校教育課長から説明がありました2点について、ご意見をいただきたいと思います。</p>
西尾委員	<p>年毎の課題は別として、全国学調の結果は、全国及び岐阜県と美濃市も同じ傾向であることには安心できる。</p> <p>全国学力学習状況調査結果を重く受け止める必要があるかは疑問であるが、「ある」と答えた結果より「ない」と答えた子どもたちへの対応が大切ではないか。</p>
藤川委員	<p>女性の社会参加は良いことだが、家庭教育が疎かになっていないか。</p> <p>調査結果を学校としても捉えることは大切であるが、家庭内での課題や取り組みが必要ではないか。</p>
樋口教育長	<p>全国学調の結果から美濃市の学力は上昇傾向にあると判断でき、この結果は少人数指導等の成果と捉えている。</p> <p>しかし、全国学力学習状況調査の結果を見ると子どもたちの内面的な課題が現れていると考えられる。</p>
中島委員	<p>点数が高い子どもより点数が低い子どもへの対応が重要である。</p> <p>小学生より中学生の方が地域への関わりが少なくなり、褒められたりすることが減ってきているため、内面的な課題（結果）につながっているのではないか。家庭の中で地域社会への参加を妨げているのではないか。</p>
市原委員	<p>子どもたちにも個々の考えがあり、学習ができる子もできない子も社会勉強の方法は様々ではないか。大学に進学することも社会で働くことも個々の方法だと考える。</p> <p>このことは、それぞれの家庭で考えていくことで、大人たちが生き生き</p>

<p>武藤市長</p>	<p>した生活を見せることが重要、かつ、大人自身にも必要ではないか。</p> <p>ここまでの委員のご意見をまとめると、家庭教育が十分ではないという共通したご意見のようです。他にご意見はありませんか。</p>
<p>西尾委員</p>	<p>同じ価値観（指導要領）で競争すれば、同じ価値観の意見や方向性になってしまうのではないか。</p> <p>地域に送り出す場合、ただ単に参加する（させる）だけではダメで、家庭内での地域活動参加への考え方が大切になってくると思う。</p>
<p>武藤市長</p>	<p>地域との関わり方が現代と昔では大きく違ってきている。以前は地域全体が家庭での子どもの有無に関係なく子どもたちと関わっていた様な覚えがあります。</p>
<p>中島委員</p>	<p>「平等」とは何か考え直すことも必要では。格差社会というが、個々の能力や個性に応じた方策や指導方法を考え直すことが必要になってきているのではないか。</p>
<p>武藤市長</p>	<p>数値資料で全てを判断できないが、傾向として市の教育方針は正しいのか、変えていかなければならないのか、全国学調結果及び全国学力学習状況調査結果で判断することは難しいことが判明したのではないか。</p> <p>内面的な課題は、「家庭教育に課題がある」という意見で一致したと思います。</p> <p>行政として、これに対する施策を考えていかなければならない。本日のご意見、また、今後ともご意見をいただいて市として実施していきたいと思えます。</p> <p>それでは、本案件はここまでとし、次に次第4（3）「美濃小学校大規模改造事業について」を議題といたします。教育総務課長から説明をお願いします。</p>
<p>猿渡教育総務課長</p>	<p>昨年度、安全・安心・快適に教育活動が行える環境づくりと災害時における防災機能を備えた学校施設として校舎等の長寿命化と経費の平準化を図るために学校施設長寿命化計画を策定しました。</p> <p>今回、この計画に基づき国庫補助を得ることができましたので、本年度から美濃小学校校舎の屋内外・屋根・設備等を順次改修していくこととなりました。</p>
<p>武藤市長</p>	<p>ただいま、教育総務課長から説明にありましたが、この度平成27年度</p>

	<p>に策定しました学校施設長寿命化計画の調査結果から、緊急に改修を実施する必要があるとして、特に古くて課題の多い美濃小学校から大規模改造改修を行うことになりました。</p> <p>計画では、全校総費用 16 億円の事業見込みで、毎年 1 校ずつ計画的に実施しても 7 年から 8 年はかかりますが、出来るだけ早く環境整備をしまいきます。</p> <p>具体的には、小学校教室のロッカーは A 4 判サイズのランドセルに対応したものに改修、遊具についても現代の子どもたちに即した遊具を検討していきます。</p> <p>改修後も 30 年間以上使用できるような教育環境を確保するため、効率的・効果的に老朽化対策を進めます。</p> <p>よりよい環境で子どもたちが学ぶことが出来るよう、世代を超えて大切に使い続けられる学校施設を目指して実施していきます。</p> <p>このことについて、皆さんのご意見があればお願いします。</p>
西尾委員	<p>美濃小学校については、グラウンドも改修の対象として検討していただきたい。</p>
武藤市長	<p>改修すべき箇所 of 全てについて、結論は得られていませんが、意見を参考にして施策・予算の中で検討させていただきたい。</p> <p>予定の時間となりましたので、本日はここまでとさせていただきます、次回以降もまた、この会議を通じて教育行政について皆さんと協議をしていきたいと考えておりますのでよろしくお願いします。</p> <p>それでは、本日の協議はこれで終了いたします。それでは、議長の任をとかせていただきます。</p> <p>皆さんのご協力のおかげで会議を順調に執り行うことができました。ありがとうございました。事務局へお返しします。</p>
西部秘書課長	<p>それでは、以上で第 2 回の総合教育会議を閉会といたします。慎重なご協議をどうもありがとうございました。</p>

平成28年度 第3回 美濃市総合教育会議 会議録

1 開催日時

平成29年1月24日（火）午後3時00分～午後4時00分

2 開催場所

美濃市防災中央コミュニティセンター2階中会議室

3 出席者（構成員）

市長（議長）	武藤鉄弘
教育長	樋口宜直
教育委員	市原慶子
教育委員	藤川貴子
教育委員	西尾政徳
教育委員	中島正憲

4 事務局

秘書課長	西部芳秀
教育次長	北村道弘
教育総務課長	猿渡篤子
学校教育課長	山口敏則
人づくり文化課長	野田 勉
秘書課課長補佐	井上博司

5 報道関係者・傍聴者

報道関係者 0名 傍聴者 0名

6 会議事項

- 1 開会
- 2 市長あいさつ
- 3 教育長あいさつ
- 4 会議事項
○子供を取り巻く家庭環境について
- 5 その他

7 会議録<開会 15:00 閉会 16:00>

発言者	発言内容
西部秘書課長	<p>定刻となりましたので、ただいまから平成 28 年度第 3 回的美濃市総合教育会議を開催いたします。はじめに武藤市長がごあいさつ申し上げます。</p>
武藤市長	<p>年明けのお忙しい中、ご参集くださいましてありがとうございます。まだ、1 月ですので、新年明けましてございます。本年もよろしく願っています。</p> <p>今年度の市政は、事業は多くはありませんが概ね順調に進んでいます。本日は、前回の会議で多く意見をいただきました「子供を取り巻く家庭環境」を会議事項といたしました。議題以外にも委員の皆さんが感じている意見もお願いします。ある程度は極端な意見があっても良いのではと思います。色々な意見を調整していくことが大切であり、課題の解決につながるかと考えています。ただ、最近、世間から外れた勘違いをしている大人もいますので気をつけていきたいと思っています。</p>
西部秘書課長	<p>次に樋口教育長からごあいさつ申し上げます。</p>
樋口教育長	<p>本日は、ご出席をいただき誠にありがとうございます。</p> <p>前回会議での「子供たちの意欲が無くなってきている（弱くなっている）」その原因は「家庭教育及び環境に問題があるのでは？」との意見を踏まえて、家庭環境の状況や保護者からの意見をとりまとめた資料を用意しましたので、参考にしていただきながらご意見をいただければと考えておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。</p>
西部秘書課長	<p>ここからは、美濃市総合教育会議設置要綱第 4 条に基づいて市長が議長となりますので、ここからの会議の進行をお願いします。</p> <p>それでは、市長よろしくお願いいたします。</p>
武藤市長	<p>それでは、要綱に基づき議長を務めさせていただきます。</p> <p>それでは、会議事項の「子供を取り巻く家庭環境について」を議題といたします。資料に基づいて学校教育課長からの説明をお願いします。</p>
山口学校教育課長	<p><資料に沿って説明></p> <p>美濃市としては、課題はあるものの、地域の支援、協力を得て取り組んでいただいているので、学校内は落ち着いた状況です。80%~90%の家庭には問題無いと考えていますが、20%~10%の家庭には問題があることから支援は必要であり、問題がある家庭が与える周りへの影響は大きいと考</p>

	<p>えています。</p>
武藤市長	<p>ただいま、学校教育課長から説明ありましたが、説明や資料に対するご質問等はありませんか。</p> <p>ご質問が無い様であれば、私から、昔と現代では親の関わり方や関わる時間が、昔の方が少なかったような気がするのですが、具体的に数値等でわかるものはあるのでしょうか。</p>
藤川委員	<p>子供の人数が原因ではないでしょうか？昔は子供の人数も多く、いつでもどこでも子供同士で遊べたため、親が関わる時間が短かったのではないかと。また、現代の家族構成の状況は判らないが、祖父母が関わっている場合もあったし、その必要もあるのではないかと。</p>
武藤市長	<p>世帯構成について、具体的な数値等は教育委員会で把握していますか。</p>
山口学校教育課長	<p>この場では資料等も無いため、明確には判りません。また、自宅と祖父母の家は別々だが、非常に近い場合など、定義が不明なところもあります。</p> <p>ただ、私が思うところでは、美濃市は二世帯以上が多いと思われませんが、核家族化は増加傾向にあると思います。</p>
樋口教育長	<p>中有知小学校区は三世帯家族が比較的多いと思いますし、大矢田小学校区や藍見小学校区は二世帯など、市内でも地区によって状況は異なると考えています。</p>
中島委員	<p>昔は親が関わらなくても、地域の人たちが見守ってくれることが多かったのではないかと。親と地域住民との連携や情報交換が豊かであったのではないかと。親も地域の人から子供に対する教育を受けていたように思う。</p>
西尾委員	<p>現代は親子の関係が近すぎるのではないかと。甘やかすということではないが、あらゆる機会での親の出番が多すぎるように思う。</p> <p>今、問題を抱えている家庭は極限られた数でピンポイントの支援が必要ではないかと。</p>
市原委員	<p>今の日本の家庭状況は、昔のアメリカ国の状況になってきているのではないかと。アメリカでも以前から家庭内での親子関係が社会的問題となり、専門学会があったと聞いている。</p> <p>私は長瀬地区に居住しているが、周りには子供がいない状況で、孤食等の問題で支援が必要な子供たちを助けたいと思っている地域の方々はい</p>

	<p>るのだが、子供が少ないため「どこで」「いつ」支援していいのか動けない状況である。地域力を子供たちに活かしたが、子供がいない状況。</p> <p>企業の採用担当から聞いた話だが、家庭環境等により人間関係（コミュニケーション？）が築けない若者が多く、採用時に部活動経験者であれば上下関係などの人間関係を構築できることもあると考えて採用しているとのこと。</p>
武藤市長	<p>他人の子供でも悪いことをしたら叱る、親はそれに文句を言わないなどの仕組みづくりはどうか。</p>
西尾委員	<p>外で子供を見かけることが少なくなり、叱る機会が少ない状況ではないか。</p> <p>昔に戻す（戻る）ことは困難だと思うので、現代に即した新しい手法を考えていくべきではないか。</p>
藤川委員	<p>以前、孫の友人に名前を尋ねたところ、個人情報だからと言って教えてくれなかった。時代の違いを強く感じた。</p> <p>参加者の固定化については、以前からの課題であり、永遠の課題ではないか。</p>
武藤市長	<p>確かに昔には戻れないが、昔無かった課題があるのであれば、解決のために昔のことを参考にしてリニューアルしては良いのではないのでしょうか。ただ、私たちが課題と思っていることは、今の家庭では課題ではないのかもしれないし、課題にして良いのかはある。学校ではどうか。</p>
山口学校教育課長	<p>現状を何とかしたいと思う親もいるし、何とも思わない親もいるので、どちらとも言えません。</p>
武藤市長	<p>意見を伺っていると、</p> <p>家庭教育を学校でしようとする⇒保護者を集めて取り組む⇒参加者が固定化する</p> <p>家庭教育を地域でしようとする⇒子供たちが少ないため機会がない</p> <p>家庭教育をPTAでしようとする⇒学校でしようとする家庭教育と同じような内容になってしまう</p> <p>いずれも課題があるとなります。</p>
中島委員	<p>学校、地域、関係機関等が子供たちのために行っている取り組みを保護者を始め、市民全員に周知するべきで、周知することにより必要性を理解</p>

<p>武藤市長</p>	<p>してもらい、そして小さな単位から行動を始めていくことがこれからではないか。</p> <p>子供が小さい時から親子に家庭教育を実施していくことが必要ではないか。</p> <p>意見をお聞きして、保育園や幼稚園の幼児、小学校低学年からの親子を対象にしていくべきかと感じています。</p>
<p>中島委員</p>	<p>確かに中学生やその親は、なかなか話を聞いてくれない。</p>
<p>武藤市長</p>	<p>結論やまとめはできていませんが、時間の都合もありますので、この件についてはここまでにさせていただき、次回にまとめさせていただきたいと思います。</p> <p>次回に向けて私からの2点ほど皆様にお願ひがあります。</p> <p>一点目は、</p> <p>ご存知かどうか判りませんが、美濃市にも奨学金制度があります。</p> <p>高校生月額7,000円、大学生月額10,000円の制度がありますが、ほとんど利用されていない状況です。</p>
<p>武藤市長</p>	<p>私としては、金額を引上げて貸付制度で市内就職等を条件で返済免除、とも考えましたが、支給制度の方が良いとも考えています。</p> <p>そこで、次回では奨学金の額及び制度についてご意見を賜りたいと思います。</p> <p>二点目は、</p> <p>特別支援が必要な子供たちが増加しているとの調査結果を聞きました。</p> <p>今後、美濃市ではこれに対してどのように対応していくべきなのか、専門知識者による支援が良いのか、普通学級の中で支援していくほうが良いのか、また、特別支援が必要な子供が増えている（支援が必要となった）原因は、医学的な身体的なものなのか、家庭における心身的なものなのか、このことについても次回でご意見を伺いたいと思います。</p> <p>これは、事務局への要望ですが、皆さんからご意見をいただいてもそれが活かされなければ意味がありませんので、次回からは意見内容等のまとめたもの及び意見に基づいた取り組み等について報告できるようにしてください。次回については、平成28年度第2回会議分も併せて報告できるように準備してください。</p> <p>それでは、本日の協議はこれで終了いたします。それでは、議長の任をとかせていただきます。</p> <p>皆さんのご協力のおかげで会議を順調に執り行うことができました。</p> <p>ありがとうございました。</p>

西部秘書課長	それでは、以上で第2回の総合教育会議を閉会といたします。 慎重なご協議をどうもありがとうございました。
--------	--

平成28年度 第4回 美濃市総合教育会議 会議録

1 開催日時

平成29年3月23日（木）午後4時10分～午後5時15分

2 開催場所

美濃市防災中央コミュニティセンター2階大会議室

3 出席者（構成員）

市長（議長）	武藤鉄弘
教育長	樋口宜直
教育委員	市原慶子
教育委員	藤川貴子
教育委員	西尾政徳
教育委員	中島正憲

4 事務局

秘書課長	西部芳秀
教育次長	北村道弘
教育総務課長	猿渡篤子
学校教育課長	山口敏則
秘書課課長補佐	井上博司

5 報道関係者・傍聴者

報道関係者 0名 傍聴者 0名

6 会議事項

- 1 開会
- 2 市長あいさつ
- 3 教育長あいさつ
- 4 会議事項
 - 総合教育会議の今年度のまとめと来年度の方向について
 - 奨学金制度について
- 5 その他

7 会議録<開会 16:10 閉会 17:15>

発言者	発言内容
西部秘書課長	<p>定刻前ではありますが、皆さんおそろいになりましたので、ただいまから平成28年度第4回的美濃市総合教育会議を開催いたします。はじめに武藤市長がごあいさつ申し上げます。</p>
武藤市長	<p>平成28年度最後の会議となりますが、お忙しい中、本年度は4回の会議を開催し、多くのご意見を賜り、感謝申し上げます。</p> <p>ご意見をいただく中で市の役割や取り組み方法について、考えさせていただきましたし、私自身にとっても有意義な意見を頂戴したと思っております。</p> <p>今回も、また、今後も次世代を担う子どもたちのために多種多様なご意見を賜りますようお願いしまして、ごあいさつとさせていただきます。</p>
西部秘書課長	<p>次に樋口教育長からごあいさつ申し上げます。</p>
樋口教育長	<p>本日は、ご出席をいただき誠にありがとうございます。</p> <p>定例教育委員会に引き続いての会議となりますが、どうぞよろしくお願い致します。</p> <p>教育委員会でも、また、本会議でも委員の方々からは非常に参考及び検討していただかなければならない貴重なご意見をいただいております。本日もよろしくお願い致します。</p>
西部秘書課長	<p>ここからは、美濃市総合教育会議設置要綱第4条に基づいて市長が議長となりますので、ここからの会議の進行をお願いします。</p> <p>それでは、市長よろしくをお願いします。</p>
武藤市長	<p>それでは、要綱に基づき議長を務めさせていただきます。</p> <p>それでは、会議事項の一つ目「総合教育会議の今年度のまとめと来年度の方向について」を議題といたします。学校教育課長からの説明をお願いします。</p>
山口学校教育課長	<p><「総合教育会議の今年度のまとめと来年度の方向について」を資料1に沿って説明></p> <p>本年度3回開催した会議の中での意見及び提言等を今後の取り組みと課題に整理し、来年度の方向性をまとめた。</p>
武藤市長	<p>ただいま、学校教育課長から説明ありましたが、ご意見やご質問等はあ</p>

	<p>りませんか。また、説明した以外の事でも構いませんので、ご発言ください。</p> <p>ご発言が無いようですので、私から、来年度予算化しました「アマルフィ市への中学生派遣事業」に対する私の考えをお話させていただきたいと思います。</p> <p>アマルフィ市との交流は、世界遺産（ユネスコ）や紙をテーマに交流を始め、今までは官官交流が多い状況でしたが、これからは民民交流へ移行していく必要があると考えています。その先駆けとして次世代を担う子どもたちを派遣し、歴史・文化・産業・教育等の交流を深めていきたいとして本事業を予算化しました。全ての中学生を派遣できればとは思いますが、多額の経費ともなりますので代表者とさせていただきました。何卒、ご理解をいただければと思います。</p>
中島委員	<p>第1回会議での「自主性を育てていく指導」は、更に深く議論していかなければ「自主性」を確立することは難しいのではないかと。</p> <p>例として、宿題を無くして家庭で子どもと保護者が学習内容を一緒に考えていくのも有りではないか。もっと具体的な内容に踏み込めたらと思う。</p> <p>英語は、やはり慣れだと思うので、早い時期からの取組みが良いと思う。</p> <p>第2回会議中の「家庭教育・地域」で感じた事だが、悩んでいる保護者は問題意識がある方で、悩みが無い、何が問題なのか、悩むことができない（しない）保護者が多いのではないかと。その対応を掘り下げていくことも必要ではないか。</p>
武藤市長	<p>現在、取り組んでいることが逆に自主性を阻害していないか考える必要があるかもしれない。本質が判らないまま「自主性」を議論してしまうと誤った方向に行ってしまう可能性がある。</p>
市原委員	<p>アメリカの子どもたちの自主性や自主性の養い方を観ると、ボランティア活動では、相手の立場になり、自分がその相手であったなら何をしてほしいのかを考えてそれを行動にしている。また、相手が障害者であっても、障害以上にその人の長所をPRしてくる。</p> <p>年齢・性別・障害の有無に関わらず、必ず選択することを実践しており、自己主張を持てるように指導していると考えられる。</p>
武藤市長	<p>「平等の考え方」について、新たな試みはできないだろうか。現行の指導による「平等の考え方」が非とすれば、抜本的な改革が必要ではないか。今までの考え方や指導方法を見つめるために、新しい考え方による指導</p>

藤川委員	<p>をどこかの学校で試行できないものか。</p> <p>関市のある小学校では、障害がある児童と給食や運動会を一緒に過ごすことを実施している。しかし、一方では授業の遅れを障害がある児童の原因とする声もあると聞いている。</p> <p>市原委員のアメリカの選択する指導については、日本の高齢者福祉の中でも実践されつつあり、良いことではないか。</p>
西尾委員	<p>指導要領改訂、自主性指導等の教育内容等の検討は真に正しい正解は無いように思うし、評価する事も難しいのではないか。</p>
藤川委員	<p>ボランティア活動が生徒の成績や受験の加点になっていた時代があった。</p>
市原委員	<p>アメリカでも同様な状況である。多いのがスーパーマーケットで荷物運びでこれもボランティア活動となっている。</p>
藤川委員	<p>いずれにしても地域との関わり合いが大切であり、そうでなければボランティアができる状況にもならないのではないか。</p>
猿渡教育総務課長	<p><「奨学金制度について」を資料2に沿って説明></p> <p>平成30年度からの奨学金制度を構築していくために皆さんからは給付型と貸与型のどちらが良いと思うか等のご意見をいただきたい。</p> <p>現行の給付型は他制度の給付型との併用は認めておらず、所得制限は、「60万円×世帯人数」以下となっている。</p>
武藤市長	<p>国は新たに3万円の給付型奨学金制度を検討しているようである。</p> <p>市では平成30年度から新奨学金制度を実施したいと考えている。</p> <p>現行の国の奨学金制度は所得制限が厳しく、その当たりも考慮していきたいと考えている。</p>
藤川委員	<p>私は給付型が望ましいと思う。理由は、貸与型は返済に苦労しているという話を聞いているからである。</p>
中島委員	<p>市としては、貸与型の方がメリットがあるのではないか。定住等の条件による一部免除・免除の方が市のためになるのではないか。</p> <p>少額の給付型では受け取る側も市も効果が薄いのではないか。</p>
西尾委員	<p>条件付き貸与型の方が市の施策と合致するのではないか。</p>

武藤市長	<p>まだまだご意見はあると思いますが、予定の時間も過ぎましたので、ここまでさせていただきたいと思います。</p> <p>奨学金制度について、新年度の第1回会議で制度案を提出させていただきたいと思いますので、その際に改めてご意見をいただければと思います。</p> <p>それでは、本日の協議はこれで終了いたします。それでは、議長の任をとかせていただきます。事務局へお返しします。</p>
西部秘書課長	<p>慎重なご協議をどうもありがとうございました。</p> <p>それでは、以上で第4回の総合教育会議を閉会といたします。</p>